

1 単元名 高等部 2 年 国語「ウソと本当を見分けよう」全 4 時間

2 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由と事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解することができる。
(知識・技能) [高 1 (2) イ (ア)]
- (2) 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。
(思考力・判断力・表現力) [高 1 (1) イ]
- (3) 積極的に集めた材料を整理し、学習の見通しをもって報告することができる。(主体的に学びに向かう態度・学びに向かう力人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

これまでも「ウソ」が社会を混乱させたことはあったが、現在はウソと本当の見分けがつきにくくなってきている。この授業を通して、生徒が社会課題としての「ポストトゥルース」に対応できるようにする。来年に選挙権を行使できる生徒たちに、卒業後に自分の生きたいように生きるために、自分の信念に従って生きられるように、また、ウソのせいで道を誤らないように、ウソを本当を見極める体験をさせたい。

ウソが言葉を用いて騙られることを鑑み、ウソについての言葉の知識と、国語辞典を使った語句調べを行う。言葉の中のウソを見つけることのできる教材を用いる。会話の語尾やノンバーバルコミュニケーションに含まれる情報について学ぶ。また、情報発信実習を行う。その際は、情報媒体の比較(新聞・雑誌・インターネット・SNS)も同時並行で行う。

真偽を見極めるための言語力、意見や情報を発信する時の心構えと責任感、惑わされないための情報収集方法を学び取ることができるであろう。

(2) 生徒観

半数以上が自身のスマホを持っていて、SNSで友人等とやりとりをしている。情報については受け身が多い。自身で友人以外に情報発信を行うことはほぼない。興味のこだわりは非常に強く、自身の興味外のことはほとんど無関心である。

自閉症スペクトラムの生徒は、ウソをつく可能性が低いと予想される。

国語辞典を使用することは毎時間なので親しんでいるが、調べ学習が定着しているとは言い難い。

アメリカ大統領選挙・新旧交代については既知である。情報・ニュースの真偽を見極められるかについては不明。

(3) 指導観

言葉・内容の真偽を確認する作業は、言葉そのものを教材として扱う国語だからこそできる。私たちが「見てしまう」「聞いてしまう」「信じてしまう」ような「感情を揺さぶる」言葉にはどのような共通点があるのかを明らかにする。その後、国語で他者の感情に心を寄せる授業、感情が動けばアクションに繋がるようなきっかけづくりをする。同時に、感情が理性的判断に影響を与えるということ(ソマティックマーカー)と、感情に訴えるポストトゥルースは、親和性が高いのではないかということを検証する。その際は ESD の視点を取り入れ、「ウソ」を実際に体験するという参加体験型の手法をとる。

真偽を確かめる力が、批評する力と態度に繋がり、社会変革へとつながる。今授業を、ESD の視点でもある社会課題に実践的に取り組む機会とし、教材や新聞記事を SDGs シールで社会課題につなげる。

授業前の認識を記録し、授業後の変容を分析・検証し、授業評価へつなげる。授業前と授業後でどう変化するかを、資料・記録としてとっておく(質問しておく)。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学びに向かう態度・学びに向かう人間性等
①考えとそれを支える理由と事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解することができる。	①目的に応じて、話題を決めることができる。 ②比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。	①積極的に学習の材料を集め、整理することができる。 ②学習の見通しをもって報告することができる。

5 ESD との関連

(1) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

【自分で感じ、考える力】人の話・社会の出来事に興味を持ち、そのことについて自分の意見をつくる力

【問題の本質を見抜く力/批判する思考力】話の周辺の情報を関連させ、背景を連想し、情報の真偽を見極める力

【気持ちや考えを表現する力】ウソをついたときの気持ちや理由、ウソをつかれたときの気持ちを周りの人に伝えることができる力

(2) 本学習で変容を促す ESD の価値観

【公正性】個々の問題が複雑に絡まり合った課題等を、多面的、総合的な観点から捉え、データや根拠に基づき実証的に考え、合理性や客観性を伴った公正な判断をすることにつながる。

(3) 達成が期待される SDGs の社会課題


【目標4 だれもが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう】

4-7 2030年までに、教育を受けるすべての人が、持続可能な社会をつくっていくために必要な知識や技術を身につけられるようにする。そのために、たとえば、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活のしかた、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

6 展開の概要(全4時間)

	生徒の活動	教師の活動	評価・備考
み つ め る ・ し か ら べ る	<p>【自身の「ウソ」について発表し、他者の発表を聞く】</p> <p>☆ウソをついたことのない人いますか？</p> <p>☆どんなときにウソをつきましたか？</p> <p>☆ウソがバレたときは何て言われましたか？</p> <p>★ウソってついちゃいけないの？ それはなぜ？</p> <p>【国語辞典で類語調べ】</p> <p>★ウソ・ウソをつく、と同じ意味になるような言葉を探してみましょう。</p>	<p>△教師の実体験を例として話す。</p> <p>△ウソでなくしてしまうものを考えさせる。</p> <p>□心にもないことを言う・作り話を言う・虚言を吐く・偽る・詐る・間違いを教える・ホラを吹く・デタラメを言う・でまかせを並べる・インチキを言う・虚言を弄する・空言を言う・根も葉もない話を言う</p>	<p>*事前アンケート</p> <p>コミュニケーション過程</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>知識・技能 ワークシート</p>



ふかめる	<p>【クイズを通してウソを知る】</p> <p>△ウソほんとうクイズをしましょう。</p> <p>私たちの身近にあるウソを探してみましよう。</p> <p>【ウソをつく・つかれることで、ウソの良い悪いを考えてみよう】</p> <p>★ウソをつくとき、バレないようにするコツにはどのようなものがありますか？</p> <p>△隣の人にウソをついてみましょう。</p> <p>☆いいウソと悪いウソはあると思いますか？</p> <p>☆どんなことでウソをつかれたら困りますか？</p>	<p>△クイズのプリント準備</p> <p><input type="checkbox"/>ウソとホントが微妙に入り混じった内容の問題。</p> <p><input type="checkbox"/>例を出す、都市伝説など。</p> <p>△ウソの技術を知ることが、だまされないことへの第一歩。自分は大丈夫、が一番危険だということを柔らかく伝える。</p> <p>△教師の実体験を例として話す。</p>	<p>ワークシート</p> <p>コミュニケーション過程</p> <p>学びに向かう態度</p> <p>クリティカルシンキング</p> <p>コミュニケーション過程</p>
しらべる	<p>【ウソの影響を知る】</p> <p>△この100年間であった、本当のようなウソの話を調べてみましょう。</p> <p>【ウソの本質を考えてみよう】</p> <p>★そのウソにはどのような共通点・特徴があります？</p> <p>☆ウソと本当の境目ってなんだと思いますか？</p>	<p><input type="checkbox"/>新型コロナウイルス関連のウソを調べる</p> <p><input type="checkbox"/>目新しい <input type="checkbox"/>怒り・不快感・許せない気持ちがある <input type="checkbox"/>誰が言ったか不明 <input type="checkbox"/>大事なところが曖昧なまま</p>	<p>ワークシート</p> <p>知識・技能</p> <p>クリティカルシンキング</p>
ひげる	<p>【ウソに引かからないためにはどうすれば良いのかを学ぶ】</p> <p>★どうすればウソに引かからない？</p> <p>☆2016・2020年にアメリカ合衆国大統領選挙で実際にあったウソはなんですか？</p> <p>☆本当のようなウソのことを何と言う？</p> <p>【選挙に行くことをイメージしてみよう】</p> <p>☆あなたの年齢はいくつですか？</p> <p>☆来年、あなたにとって大事なことが行われますが、それはなんですか？</p> <p>☆投票する人を決めるときに何を重視しますか？</p> <p>☆あなたの耳に入ってくる情報がウソか本当か見分けるにはどうすればいいですか？（復習になるように）</p>	<p>△当時の新聞記事コピー</p> <p><input type="checkbox"/>ポスト・トゥルース</p> <p><input type="checkbox"/></p>  <p><input type="checkbox"/>沖縄県知事選 <input type="checkbox"/>市町村議選</p> <p>△箇条書きにされた、まとめのプリント。もしくは、穴埋めプリントを作成する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>ワークシート</p> <p>クリティカルシンキング</p> <p>ワークシート</p> <p>学びに向かう態度</p> <p>定着テスト</p> <p>*事後アンケート</p>

7 成果と課題

(1) 成果

実施日は2022年1月7日(金)、今回は新型コロナウイルス感染拡大による分散登校の中での授業であったため、予定していた学級ではなく、担任する軽度知的障害学級での実践となった。そのことも関係するであろうが、予想していた自閉症スペクトラムの言動がなかったため、短時間の授業となった。

自閉症スペクトラムと診断されている生徒はいたが、ウソがつけないという実態はなかった。よって、ウソのことはある程度はわかるという前提で授業を進めた。

ウソという、日常的な事柄がテーマであるため、生徒の授業への参加度は高かった。質問を授業の中心に据えたことで、生徒の内言を出発点にすることができ、考え方の変容にまで辿り着くことができた。

今単元の目標は達成できた。自分の意見を発表できる雰囲気があったからか、生徒は自身の意見を発表し、理由と事例を挙げることができた。また、授業者が用意した質問ごとに話題を準備し、授業者を介してではあるが、伝え合い比較することができた。

(2) 課題

もともと生徒たちが批判的ではないため、表層的には授業内容をそのまま受け入れたように見える。その学んだことが「情報を批判的に見る」という、半ば矛盾することを学んだわけであるから、定着を確認し、実践を促進していく必要がある。

8 本単元を通じた考察

【言葉を表出させる際の心の動きを自ら確かめることで、行動が変容する】

ウソについて抽象的に考える機会というのは(私たちでさえ)減多になく、ウソについての質問をすることで言葉を表出させる際の心の動きを顧みる機会を設けることができたのは大きな成果である。

上記5(1)で示した事項については、3項目とも授業内で学習できたので、定着を図っていききたい。5(2)についても、米大統領選でのフェイクニュースに関する一連の流れを学ぶことで、課題に取り組む際の考え方に変容が見られた。しかし、SDGsとの関連でいえば、設定した社会課題解決に向けた方向性を提示することはできなかった。ゆえに、社会課題とうまく接続できたなら、言葉に対する鋭敏さを発揮し解決へと動き出すであろう。

ソマティックマーカーとフェイクニュースの相性についても検討するとしたが、生徒の反応を見る限り、その相性は良さそうである。特に、本授業の対象である軽度知的障害の生徒にとっては、理論的・抽象的な考え方よりも感情的・具体的な捉え方が優先されるようである。「やっぱり〇〇」「だめでしょ」「許せない」等の発言があり、17年間の人生における「正しさ」にこだわりは持っている。しかし、その「正しさ」がアニメ・漫画に代表されるような、日本人の空気感の上澄みを掬い取ったような「正しさ」、誰も決して否定しない・できない「正しさ」にしか依拠していないものだとしたら、それは多様性の許容からは程遠い「正しさ」でしかない。ESDやSDGsが多様性を標榜するならば、ソマティックマーカーを手段として用いる危うさを認識しつつ、授業に取り入れなければならないであろう。

授業終盤、生徒に「ウソに引っかからないためにはどうすればいいですか」という質問を投げかけ、考えを記述させた。生徒6名のうち2名が「人を信じない」「人の言うことはまず疑う」と答えた。授業設計に瑕疵があったであろうか、生徒をただ怖がらせる結果になりそうであった。その後すぐに「ウソを見抜くためのヒント」として「文末に『～らしい』『～かもしれない』があれば疑ってみよう」「他の新聞やニュース、人に聞いて確かめてみよう」等を伝えたが、人の言うことを素直に受け入れるという軽度知的障害特有の無防備さに、微笑ましくも少々心配になった。7(2)で先述したように、批判性の定着の難しさを改めて実感する一幕であった。